

埼玉県取り組み！ - 西日本防災システム

情報元 埼玉県HP

埼玉県では、大規模な災害で地中埋設されている水道管が寸断され、屋外の消火栓が使えない事態に陥る事態に備えて、川の水を消防用水として使う川の消火基地整備を進めているそうです。首都直下型地震発生時に大きな火災が想定される県南部6市の住宅密集地で、2015年度までに120カ所設置する予定だそうです。整備されるのは草加市、三郷市、八潮市、川口市、戸田市、蕨市の県内6市で、約120万人が暮らす人口密集地です。

都道府県がこれほど大規模に消防用水として川の整備するのは全国で初めてのようです。

上記6市に整備するのは、東京湾北部地震を対象とした埼玉県地震被害想定調査で、焼失棟数が28,485棟で県全体の48パーセント、焼死者数が613人と県全体の85パーセントを占める被害が想定されていることから、集中的にこの6市に整備することにしたそうです。

平成27年度までに1kmに1カ所を目安に120カ所を整備する計画のようで、整備が完了すれば、6市の市街地の75パーセントの地域に送水が可能となるそうです。今年度は河川の水深や護岸の状況、その他諸事情を考慮して、40カ所を整備することになっているそうです。

この1基地で半径500mに送水可能だそうです。この消火基地は扉付き防護フェンスや川に下りる階段、取水ピットなどで構成されています。このピットは埼玉県が独自に開発し、網状になったストレーナーでごみを除いて水をくみ上げる仕組みで、護岸の形状に合わせた箱型のものもあるそうです。

屋外の消火栓は、いつでも何があっても放水可能とは限りませんものね！ 水路の豊富な地域では最適な設備ではないでしょうか。



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ ➡